

# かかわりを学ぶ体験活動「ボランティア一中」

足利市立第一中学校 高 橋 フ ミ 子

## 1 はじめに

本校は福祉の心を育てるための活動を長い間続けています。特にJRC活動は、20年以上も続けているとあって、一昨年、市から表彰を受けました。また友愛訪問として、生徒会を中心として毎年2回、地域のお年寄りを訪問しています。この活動は昭和51年から脈々として受け継がれ今日にいたっています。しかし、これらの活動は中学校生活3年間で継続的になされ、実践力を育んでいるのか疑問をもつようになりました。それぞれの活動は単発的に計画され実施されています。将来、ボランティア活動を実践する力を育むためには、3年間を見通した継続性のある計画を立て、実施していくことが大切なのではと考えました。そこで、昨年から以下のような実践をすることになりました。

## 2 ねらい

- (1) 自分でやれるボランティア活動を考え、継続的に体験させることで、社会の一員として役立っていることを自覚させる。 (自立と共生)
- (2) 友人と協力して活動したり、地域の人々と交流することで、人と人とかかわりながら、人間としての生き方を学ばせる。 (心の教育の充実)

## 3 今年度の重点目標

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>(1) ガイダンス機能の充実を図る。</li><li>(2) 生徒会活動の活性化を図る。</li><li>(3) 学級活動の工夫を図る。</li></ol> |
|--|

## 4 具 体 策

### (1) 第1回ボランティアタイム 4月24日(月)

- ① 朝会の時間 体育館においてJRC結団式を行う。
- ② 福祉講演 第5校時

参加者：生徒、教師、保護者

講師：足利市社会福祉協議会 安藤重之先生(故)

内容：「たくさんの出会いの中で」

ボランティア一中に期待すること、今なぜ中学生がボランティア活動を…、「誰かのために」から「自分のためにも」へ、当たり前の毎日をちょっと視点を変えて、あらたまってボランティア、さりげなくボランティア、等の項目で講演をしていただきました。(あらかじめ事前打ち合わせをもち、一中のボランティア活動について説明し、講演の内容をお願いしました。)

③ 学級活動 第6校時 裁量の時間

内 容 「自分でできるボランティア活動を考えよう」

- 無理せず自分の力でできるボランティア活動や方法を考え計画を立てる。
- 「ボランティア中」ノートに記入しファイルする。  
体験のやりっぱなしにしないで自分を振り返るための時間を確保する。
- クラスの人の発表を聞いていろいろな考えを知る。

《生徒の感想》

私は今まで「他人のため」と思いボランティア活動をしてきました。だから、ビデオの高校生が「自分のためにやっているのに人から偉いと言われるのがいやだ。」と言っているのを聞いて、私もそう思えるようになりたいと思いました。

(2) 第2回ボランティアタイム 6月26日(月) 学校公開

- ① 学級活動を福祉関係者や地域の方、保護者に参観してもらったり、ともに活動したりしてもらう。
- ② 各クラス独自で「ボランティア中」の学級活動内容を決めて(下記の例を参考にして)、活動内容の指導略案を提出する。先生だけでなく参加者にも配布できるようにする。

《例》

車いす体験＝学校内を車いすでまわり感想を発表する。校舎や道路などの福祉マップを作成する。お年寄りを学校へ招待して案内する。など

手話教室＝手話を学び練習する。実際に手話で通じるか体験する。講師を依頼してもよい。

点字、介護(介助)、ブラインドウォーク(盲導犬体験)、役立ててもらえる雑巾づくり、その他各クラスのアイディアで計画する。

- ③ 担任の先生だけでなく学年所属の先生もTTを組む。
- ④ 学習ゾーンは教室に限らず校舎内自由に使える。

《各クラスで実践した例》

クラス	場 所	内 容
1-1 1-2	1・2組合同 体育館、多目的スペース	福祉講演と車椅子のバスケットボール体験
2-1 2-2	1・2組合同 体育館	福祉協議会の講演とアイマスク・車椅子体験
3-1	3-1教室	点字の基本(読む)
3-2	3-2教室	点字ペンで実際に打つ

## 《生徒の感想》

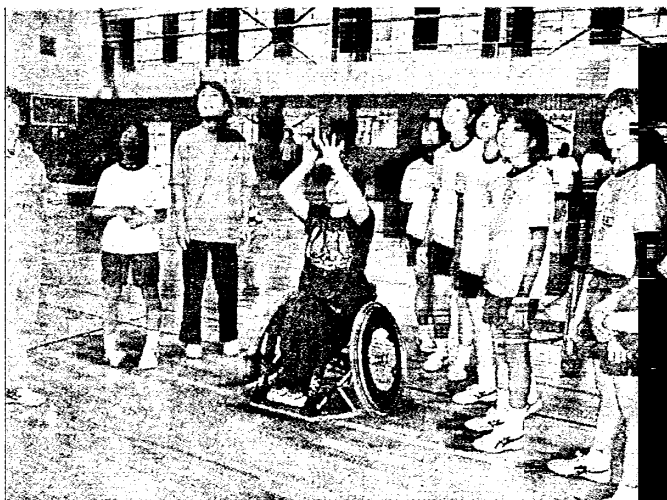
- ・ パラリンピックを見たことはありませんが、今日教えてもらった気がします。車椅子を使っている方への接し方や態度がわかりました。
- ・ これからは車椅子や障害者の人など偏見の目でなく普通の人と同じ高さで見たいと思います。

## 《学年だより》7月号

塚本京子さんから車椅子バスケットを教わりました。

ボランティアタイムの時間に、パラリンピックの車椅子バスケットボールに日本代表で出場する塚本選手を招いて車椅子での生活をお聞きしました。事故で車椅子での生活になってから結婚し、2人のお子さんを育てられながら、バスケットを続けておられるそうです。華麗な技を披露していただいたり、いっしょに車椅子バスケットボールを体験しました。障害をもっている、前向きに頑張っておられることを知り、たくさんの「元気」をいただくことができました。

塚本京子さんと一緒にバスケットを楽しむ



シドニーパラリンピックに出場した塚本さんからのお礼状

このたび、女子車椅子バスケットボールチームは銅メダルを獲得することができました。

これも、みなさまのご支援のおかげです。

ありがとうございました!!  
女子車椅子バスケットボール日本代表  
キャプテン

塚本京子

生徒の皆さんからの応援メッセージ。  
選手村の宿舎に飾り励みにさせて  
いただきました。

### (3) 夏休みのボランティア「自分でできる身近なボランティア活動」

- ① 各自夏休みに自分でできるボランティア活動を計画しレポートにまとめる。

《例》クリーン活動、老人ホーム訪問、日赤ボランティア、ボランティアスクールへの参加

- ② ボランティア活動ノートに記入し提出する。

③ 生徒集会での体験発表 9月11日(月)

各学年代表1名が全校生徒の前で次のような体験発表をしました。

- 1年 盛雄苑ボランティアに参加して
- 2年 日赤ボランティアに参加して
- 3年 学童保育「子ども館」での体験

《学年だより》

ぼくの私のボランティア体験発表

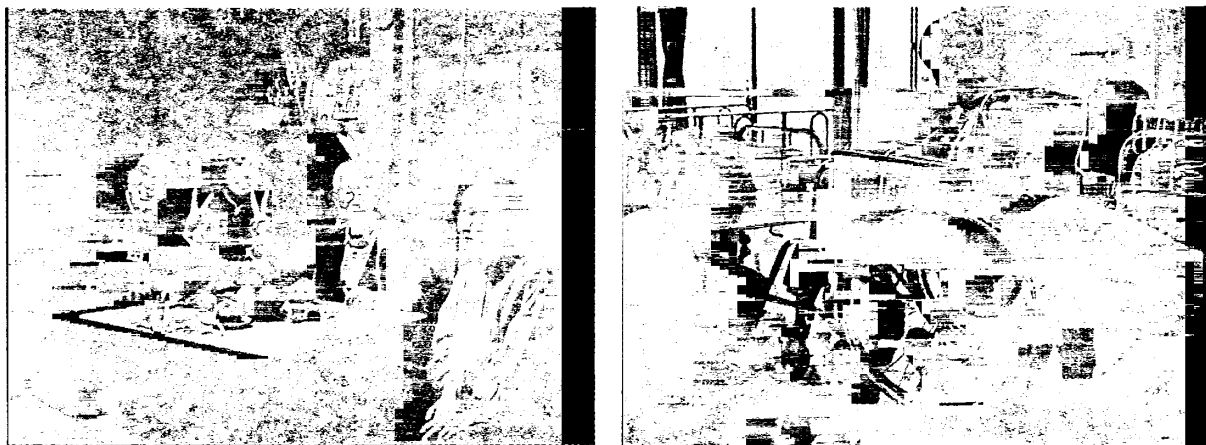
生徒全員が夏休みの間、自分でできるボランティア活動をしました。自分の周りのことで簡単にできることから始めていければよいと思います。たとえば福祉協議会の安藤先生の話にもありましたが、「おはようございます。」と近所の人に明るい挨拶をかけるのもよいでしょう。それができる人はちょっと勇気を出してお話してみましよう。きっと新しい自分を発見できると思います。

《生徒の感想》

- ・ 友愛訪問(2度目の訪問)前回行ったときに、一緒に色紙に俳句や絵を描こうと約束したので行きました。本田さんが夏向けの俳句をつくってくれたので、その下に私が絵をつけました。冬の俳句が書いてある色紙を前にいただきましたが今回は春の俳句の色紙をいただきました。
- ・ 常念寺保育園でお手伝いをさせていただいて、とても勉強になりました。保母さんの子どもに対する接し方や、保母の仕事の大変さを知ることができました。大変だったけど子どもといっしょに遊ぶのは楽しかったです。

(4) 第3回ボランティアタイム 10月23日(月) 校外活動

- ① 友愛訪問、盛雄苑訪問、クリーン活動の中から自分のやりたい活動を選ぶ。
- ② 友愛訪問は町内の訪問先を3-4人のグループで(1年から3年までの縦割り)訪問する。
- ③ 盛雄苑訪問の内容は奉仕作業、歓談、催し物など。許容人員は30人である。
- ④ クリーン活動は地域を知るために、町内別に(縦割り)グループ編成とする。  
今回は足利公園、織物会館、織姫会館、今福町山口スーパーの4カ所から選ぶ。
- ⑤ 1年間、同じ体験をしなくても、いろいろな体験を積み上げていくことがボランティアの精神を培い継続化につながると考える。
- ⑥ ボランティアノートに記入しファイルする。



(5) 第4回ボランティアタイム 2月5日(月) 施設訪問

- ① 希望者による実施とする
- ② 盛雄苑訪問だけでなくその他の施設訪問も入れる。
- ③ できるだけ継続的な活動となるよう支援する。
- ④ ボランティアノートに記入しファイルする。これまでの1年間の歩みを振り返る。

(6) 生徒会活動の活性化

※ 課題 生徒主体の活動にするためにはどうするか

- ① 全校一斉登校時のクリーン活動 通学路 年3回
- ② 「ボランティア中」の広報活動(意識の高揚を図る)
- ③ 生徒集会での擬似体験(自己とのかかわりでとらえられるようにする)  
 昨年の例: マット上で車椅子体験、視覚障害者のために「シャンプーとリンス」
- ④ 各委員会で「ボランティア中」について話し合う  
 議題: 「自分たちでできるボランティア活動」



## ⑤ 年間計画

月	活 動 内 容	関 連 行 事
4	ガイダンス「ボランティア一中」について、福祉講演会（24日） JRC結団式	入学式、PTA総会
5	生徒集会（8日） クリーン運動（9・10日）	修学旅行、家庭訪問
6	生徒集会、緑の羽根募金 ボランティアタイム学級活動、学校公開（26日）	林間学校
7	ベルマーク集計、ユニセフ運動（募金） 夏休みのボランティア計画（10日）	学年部会、学校公開
夏休み	自分でできるボランティア活動	高校一日体験
9	生徒集会（夏休みのボランティア体験発表） クリーン運動（12・13日） 10月の体験活動のグループ結成 計画を立てる 愛の1円運動、友情の絵葉書き	スポーツ大会
10	体験活動、心の友運動	
11	継続的な個人活動	
12	ベルマーク集計、赤い羽根募金	学年部会、学校公開
冬休み	自分でできるボランティア活動	
1	生徒集会（冬休みのボランティア体験発表）	
2	ボランティアタイム体験活動	職場体験、立志式
3	自分を振り返る クリーン運動（13・14日）	卒業式

## 5 今後の課題

生徒たちには「ボランティア一中」のイメージが定着してきました。福祉協議会の安藤先生がおっしゃったように、一中でボランティア活動をしているのではなく、ボランティア活動をしている人が一中に多いと言われるように継続化を図ることは重要です。

実践にあたっては、教師間で趣旨の徹底をはかるなど共通理解をはかるために、まだまだ反省すべき点は多く、また、生徒主体のボランティア活動にするためにも工夫すべき点があります。今年度の反省をもとに改善していかなければならないと考えています。

## 評

近年、都市化、少子化、核家族化が進む中、児童生徒の生活体験が希薄化していることから体験を通じて勤労の尊さや社会に奉仕する精神を養うことが、これまで以上に重要になってきています。

新学習指導要領においても「生きる力」を育成するために、「総合的な学習の時間」や道徳特別活動等をはじめとして、子供の生活体験や自然体験とともにボランティア活動などの社会体験を一層豊かにし、充実させることが求められています。

第一中学校では、ボランティア活動を実践する力を育むため、長い間続けてこられている福祉の心を育てるための活動を、中学校3年間を見通した継続性のあるものにとの願いのもと、「自分で考え、継続的に体験することで、社会の一員として役立っていることを自覚するボランティア活動」「友達と協力したり、地域の人々と交流する中で、人間としての生き方を学ぶボランティア活動」をめざし取り組んでこられました。

具体的に実践概要をあげてみますと、年4回のボランティアタイムが設けられ、第一回目では自分でできるボランティア活動の計画が生まれ、第2回目では福祉関係者や、地域の方々保護者に参加してもらいながらの講演や車椅子のバスケットボール体験、アイマスク、点字にかかわる体験に取り組み、第3・4回目においては友愛訪問、盛雄苑、クリーン活動の中から自分のやりたい活動を選び取り組んでおります。また、更に夏休みには、自分でできるボランティア活動が計画され、実施されてきました。そして、これらの活動体験においては、振り返りも含め、ノートにまとめファイルし、やりっ放しにしないことにも努めて参りました。生徒の感想には、「『ボランティア活動は、自分のためにやっているのに人から偉いといわれるのは嫌だ』と思えるようになりたい。」「障害をもっている、前向きに頑張っておられることを知り、たくさんの元気をいただくことができた。」とあり、このような豊かな心の動きが起こる体験こそが、豊かな体験であり、豊かな心を育むことにつながると思います。

本校の実践における数々の成果が、各学校において大いに参考になるものと確信しております。